

佳作

大人の絵本読み聞かせ やってみました

山田 真人志

初めまして

私は団塊世代です。建設会社で建築現場の所長をやっていた。朝は子供の寝顔を見て家を出、帰ると子供はすでに寝ていました。土日仕事が多かったです。仕事のストレスのためアルコールを相当飲んでいました。いつも寝不足でした。風邪がもとで結核になり、仕事第一の生き方を変え人生を有意義に過ごすことにしました。荒川コミュニティカレッジが二期生として卒業しました。

健康カフェコミカレ

社会福祉協議会が老人施設で使用されていない部

屋があり、そこで高齢者支援活動をやってくれませんか、と声を掛けてくれました。コミュニティカレッジ卒業生たちと五年前から毎週水曜日の午前中に、講談・落語・手品・ギター演奏・歌などを提供し、毎回終了時に体操をしています。自宅にこもりがちな高齢者が、いつも十五名ほど参加してくれます。

大人の絵本読み聞かせ

落語は元校長先生にお願いしていました。五年も続き落語の持ちネタが無くなってしまいました。元校長先生は子供向け絵本の読み聞かせもされています。この事から大人向けの絵本を落語の代わりに提供してもらえないかと考えました。図書館「ゆいの森」には絵本が沢山開架されています。

大人に読み聞かせできる絵本は無いかと、絵本の

カウンターで聞いてみました。大人の絵本コーナーがあることを教えてくれました。柳田氏の写真のそばにあった「絵本は人生に三度」の言葉が心に響きました。

まず自分が子供の時

次に自分が子供を育てる時

そして自分が人生の後半に入った時

特に人生の後半に老いを意識したり、病氣したり、人生の起伏を振り返ったりするようになって、絵本から思いがけず新しい発見と言うべき深い意味を読みとる事が少なくないと思うのです。「絵本の力」より

見つけた一冊

大人の絵本として高齢者に読み聞かせ出来そうな物が何冊ありました。一番気に入ったのは「だ

いじょうぶ だいじょうぶ」「いとつひろし著です。おじいさんが孫に「だいじょうぶ・だいじょうぶ」と言って聞かせていた。孫が成長し、おじいさんは死を迎える。孫がおじいさんに言います「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

大人の絵本読み聞かせ

元校長先生に落語の代わりにこの本の読み聞かせを提案しました。快く承諾していただき実施することになりました。当日読み聞かせ用のおおきなサイズの絵本を図書館から借りてきてくれました。片手に絵本を持ち、感情豊かに上手に読んでくれました。終わってからの反応は、いつもの落語が終わった時よりも拍手が少ないと感じました。残念ながら私が感じたような感動は無かったです。結局、大人の絵本の読み聞かせは一度で終

わり、落語も演じられなくなりました。

余生の不安

加齢による体力の衰えを意識しています。ガンの再発や認知症への恐れ。母親との死別。自分の余生を見据え、人生の起伏を振り返っています。「俺はだいじょうぶ。だいじょうぶ。」と自分に呼びかけています。

人生に三度の絵本

娘は三人の男の子がいます。長男が今年小学校に入り、初めての夏休みでした。孫育て実戦のチャンスでした。高尾山・海水浴・蝉取り・映画に連れて行き楽しい思い出ができました。「この子といつまで？」という思いはどの高齢者もあるでしょう。

保育園に行っている孫が絵本を持って膝の上に

乗ってきます。読み聞かせをするとまた次の絵本を持つてきます。家にある絵本を全部読むまで続きます。高齢者への絵本読み聞かせは思ったようにいきませんでした。大人の絵本がある事をしました。「絵本は人生に三度」絵本から深い意味を読み取ることができました。孫たちとの余生の楽しみが増えました。この孫たちが成長し、私の手をとって「おじいちゃん！だいじょうぶだいじょうぶ」と言ってくれますでしょう。

〳柳田邦男先生からのメッセージ〳

山田さんは、もとは建設関係の仕事をしてきたとのこと。結核を患ったことから、生き方を変えたというのは、いい決断でしたね。

高齢になると、体力を必要とする活動をするのは無理ですから、人生経験を活かしたり、知的なことを活かす活動がいいですね。

老人施設での高齢者支援活動は、まさにそういう活動だと思います。そのなかで、高齢者対象の絵本の読み聞かせにチャレンジしたとのこと。その発想はよかったです、私は思います。

しかし、反応が落語をやったときよりいまひとつ盛り上がらなかつたので、一回きりで止めてしまったといのは、惜しいです。もし可能なら、どういふ絵本がよいか何冊も用意して、仲間とどれにするか検討し合ったり、どういふ読み聞かせの演出が魅力的かを研究したり、一冊をただ読むの

でなく、いろいろな人生や世の中のことについてのおしゃべりを交えながら、絵本を味わうとか、そういうことを仲間で研究すると、そのこと自体が自分たちにとって楽しい時間になるかもしれません。読み聞かせを提供する前に、自分たちがみんな楽しんでこそ、施設の利用者に楽しんでもらえることができるのかもしれない。

それにしても、山田さんが、絵本『だいじょうぶだいじょうぶ』が気に入って、自分の余生の不安を吹き飛ばす支えにしたり、孫に読み聞かせをしたりしているのは、すばらしいです。